

令和5年度ネットリサーチ「救急医療」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等の認知度については、「#7119（茨城県おとな救急電話相談）」（20.6%）、「#8000（茨城県子ども救急電話相談）」（15.5%）、「医療相談アプリ（LINEヘルスケア、LEBER（リーバー）など）」（5.0%）などとなっている。
- 救急電話相談の利用希望については、「ぜひ積極的に利用したい」（14.6%）、「時と場合によっては利用してみたい」（65.1%）を合わせた【利用したい】が79.7%となっている。
- AEDの使用について、「実際にAEDを使うことができる」と回答した方は、32.8%となっている。

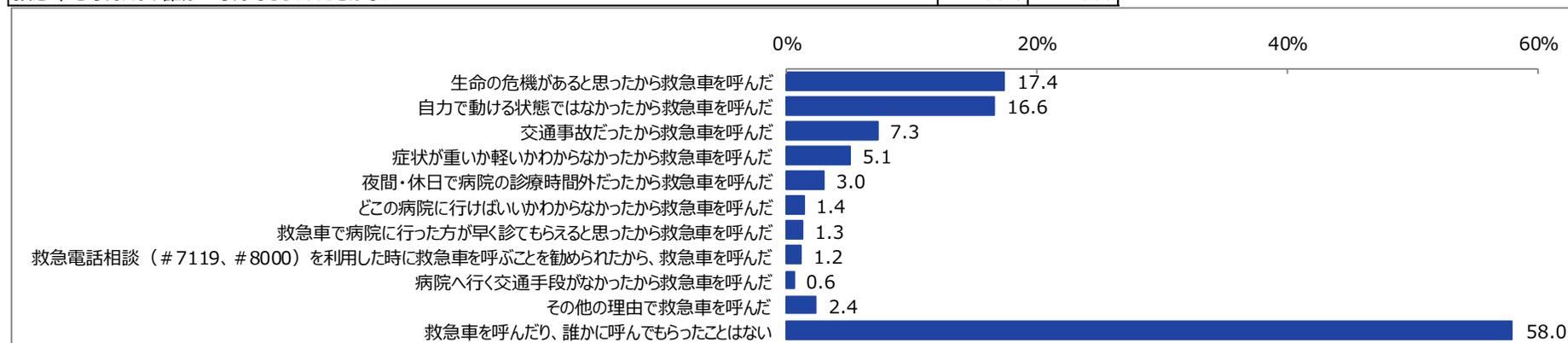
■調査結果の概要

1 救急車を呼んだ理由

☆ 「生命の危機があったから救急車を呼んだ」が17.4%で最も高く、「自力で動ける状態ではなかったから救急車を呼んだ」が16.6%と続く。

Q1.あなたは、救急車を呼んだことや、誰かに呼んでもらったことがありますか。また、救急車を呼んだことがある場合、それはどのような理由ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
生命の危機があったから救急車を呼んだ	17.4	174
自力で動ける状態ではなかったから救急車を呼んだ	16.6	166
交通事故だったから救急車を呼んだ	7.3	73
症状が重いか軽いかわからなかったから救急車を呼んだ	5.1	51
夜間・休日で病院の診療時間外だったから救急車を呼んだ	3.0	30
どの病院に行けばいいかわからなかったから救急車を呼んだ	1.4	14
救急車で病院に行った方が早く診てもらえると思ったから救急車を呼んだ	1.3	13
救急電話相談（#7119、#8000）を利用した時に救急車を呼ぶことを勧められたから、救急車を呼んだ	1.2	12
病院へ行く交通手段がなかったから救急車を呼んだ	0.6	6
その他の理由で救急車を呼んだ	2.4	24
救急車を呼んだり、誰かに呼んでもらったことはない	58.0	580



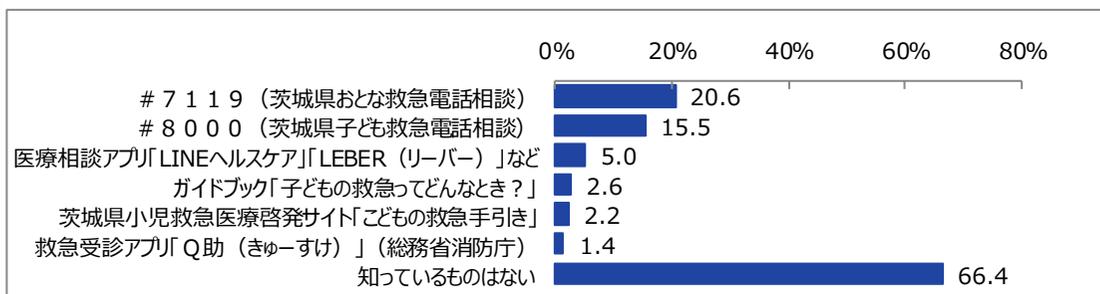
2 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等の認知度

◇ 「# 7 1 1 9（茨城県おとな救急電話相談）」が20.6%で最も高く、「# 8 0 0 0（茨城県子ども救急電話相談）」が15.5%と続く。

◇ 一方で「知っているものはない」と回答した方は、66.4%であった。

Q2.あなたやあなたの家族が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのか、自分で病院を受診すればいいかを判断するために、ガイドブックや、専門家に相談できる電話相談窓口があります。この中から、あなたが実際に知っているものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
# 7 1 1 9（茨城県おとな救急電話相談）	20.6	206
# 8 0 0 0（茨城県子ども救急電話相談）	15.5	155
医療相談アプリ「LINEヘルスケア」「LEBER（リーバー）」など	5.0	50
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	2.6	26
茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」	2.2	22
救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」（総務省消防庁）	1.4	14
知っているものはない	66.4	664



（参考）

○「# 7 1 1 9」「# 8 0 0 0」は、急な病気やケガで救急車を呼ぶべきか、すぐに医療機関を受診した方がいいのかといった判断に迷った際に、医師や看護師等の専門家から電話でアドバイスを受けることができます（24時間365日）。

茨城県救急電話相談について詳しくは、以下のURLからご覧ください。

茨城県HP：<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/kenmin/life/hoken/isei/01/isei-001.html>

○ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」については、以下のURLからご覧ください。

ガイドブック：<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/iryo/isei/div/system/child/documents/panfu.pdf>

○茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」については、以下のURLからご覧ください。

「こどもの救急手引き」：<https://www.pedqq.pref.ibaraki.jp/>

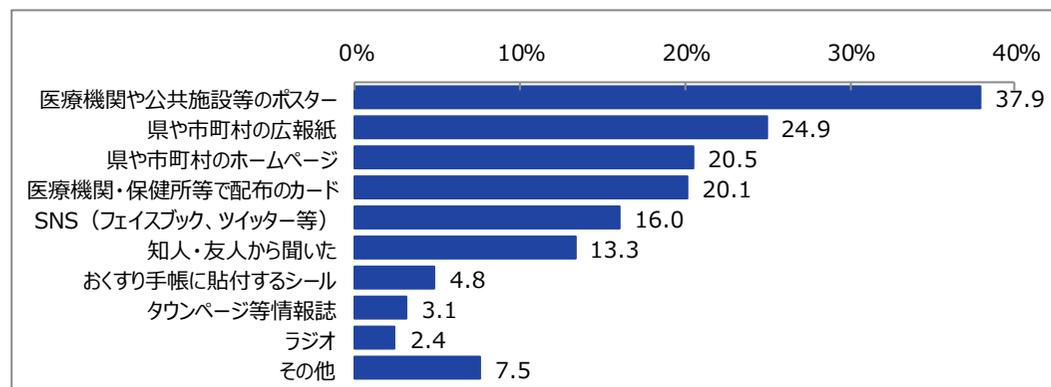
3 救急電話相談の認知経路

◇ 「医療機関や公共施設等のポスター」が37.9%で最も高く、「県や市町村の広報紙」が24.9%と続く。

(Q2で「#7119 (茨城県おとな救急電話相談)」「#8000 (茨城県子ども救急電話相談)」と回答された方へ)

Q3.あなたは、「救急電話相談」を何で知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	293
医療機関や公共施設等のポスター	37.9	111
県や市町村の広報紙	24.9	73
県や市町村のホームページ	20.5	60
医療機関・保健所等で配布のカード	20.1	59
SNS (フェイスブック、ツイッター等)	16.0	47
知人・友人から聞いた	13.3	39
おくすり手帳に貼付するシール	4.8	14
タウンページ等情報誌	3.1	9
ラジオ	2.4	7
その他	7.5	22



4 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等の利用状況

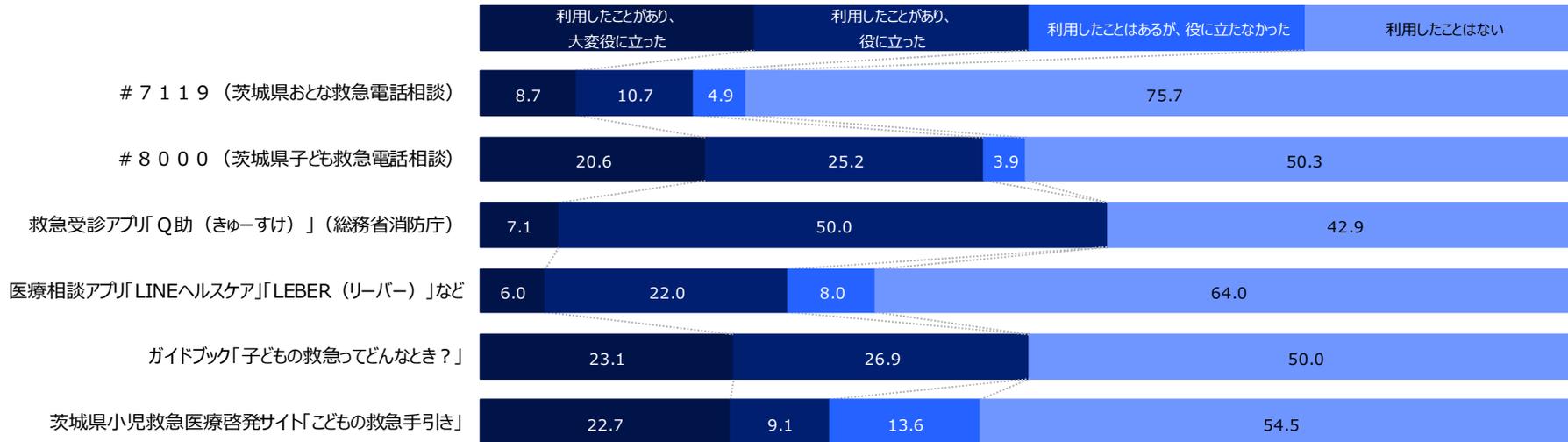
◇ 「#7119 (茨城県おとな救急電話相談)」については、「利用したことがあり、大変役に立った」(8.7%)、「利用したことがあり、役に立った」(10.7%)、「利用したことはあるが、役に立たなかった」(4.9%) などとなっている。

◇ 「#8000 (茨城県子ども救急電話相談)」については、「利用したことがあり、大変役に立った」(20.6%)、「利用したことがあり、役に立った」(25.2%)、「利用したことはあるが、役に立たなかった」(3.9%) などとなっている。

◇ 「救急受診アプリ「Q助 (きゅーすけ)」」については、「利用したことがあり、大変役に立った」(7.1%)、「利用したことがあり、役に立った」(50.0%)、「利用したことはあるが、役に立たなかった」(0.0%) などとなっている。

(Q2で「7.知っているものはない」以外を選択された方へ)

Q4.あなたは、専門家に相談できる電話相談窓口やガイドブック等について、利用したことがありますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	%	利用したことがあり、大変役に立った	利用したことがあり、役に立った	利用したことはあるが、役に立たなかった	利用したことはない
# 7 1 1 9 (茨城県おとな救急電話相談)	100.0	8.7	10.7	4.9	75.7
# 8 0 0 0 (茨城県子ども救急電話相談)	100.0	20.6	25.2	3.9	50.3
救急受診アプリ「Q助 (きゅーすけ)」(総務省消防庁)	100.0	7.1	50.0	0.0	42.9
医療相談アプリ「LINEヘルスケア」「LEBER (リーバー)」など	100.0	6.0	22.0	8.0	64.0
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	100.0	23.1	26.9	0.0	50.0
茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」	100.0	22.7	9.1	13.6	54.5

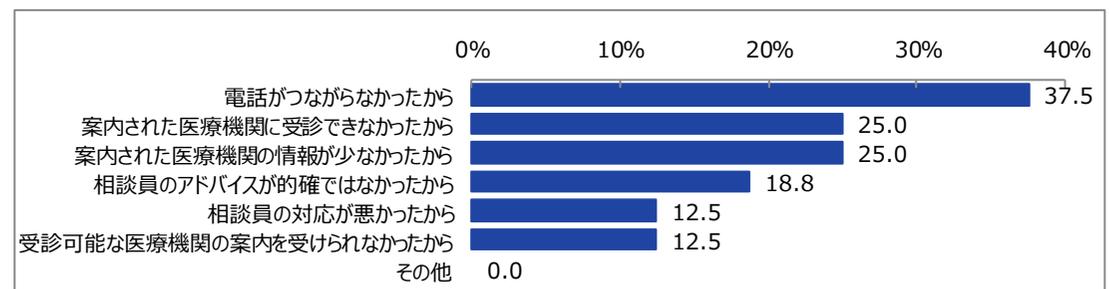
5 救急電話相談が役に立たなかった理由

◇ 「電話が繋がらなかったから」が37.5%で最も高く、「案内された医療機関に受診できなかったから」などが25.0%と続く。

(Q2で「# 7 1 1 9 (茨城県おとな救急電話相談)」# 8 0 0 0 (茨城県子ども救急電話相談)」を選択し、Q4で「利用したことはあるが、役に立たなかった」と回答した方へ)

Q5.「救急電話相談」が役に立たなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	16
電話が繋がらなかったから	37.5	6
案内された医療機関に受診できなかったから	25.0	4
案内された医療機関の情報が少なかったから	25.0	4
相談員のアドバイスが的確ではなかったから	18.8	3
相談員の対応が悪かったから	12.5	2
受診可能な医療機関の案内を受けられなかったから	12.5	2
その他	0.0	0

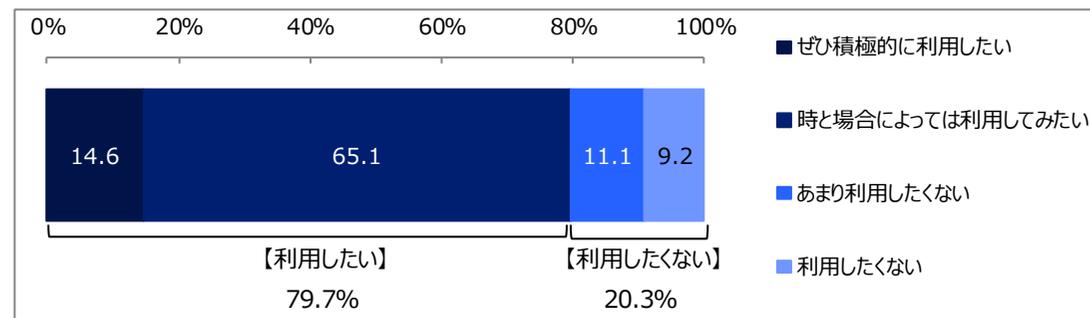


6 救急電話相談の利用希望

◇ 「ぜひ積極的に利用したい」(14.6%)、「時と場合によっては利用してみたい」(65.1%)を合わせた【利用したい】は79.7%となっている。

Q6.あなたは、「救急電話相談」を利用してみたいと思いますか。また、利用したことがある方は、次回も利用してみたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
ぜひ積極的に利用したい	14.6	146
時と場合によっては利用してみたい	65.1	651
あまり利用したくない	11.1	111
利用したくない	9.2	92

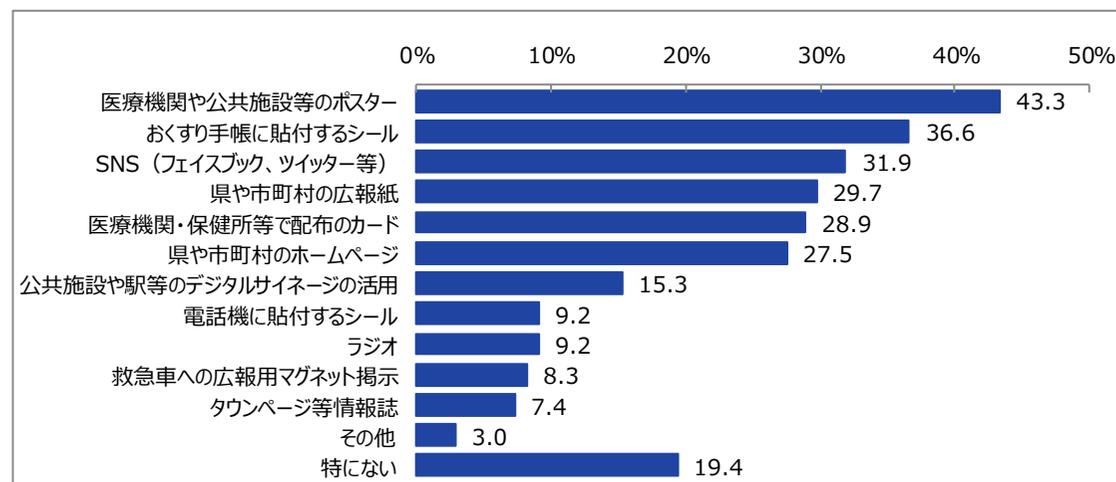


7 効果的だと思う広報手段

◇ 「医療機関や公共施設等のポスター」が43.3%で最も高く、「おくすり手帳に貼付するシール」が36.6%と続く。

Q7.あなたは、「救急電話相談」の認知度向上に向け、どのような広報手段が効果的だと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
医療機関や公共施設等のポスター	43.3	433
おくすり手帳に貼付するシール	36.6	366
SNS（フェイスブック、ツイッター等）	31.9	319
県や市町村の広報紙	29.7	297
医療機関・保健所等で配布のカード	28.9	289
県や市町村のホームページ	27.5	275
公共施設や駅等のデジタルサイネージの活用	15.3	153
電話機に貼付するシール	9.2	92
ラジオ	9.2	92
救急車への広報用マグネット掲示	8.3	83
タウンページ等情報誌	7.4	74
その他	3.0	30
特になし	19.4	194

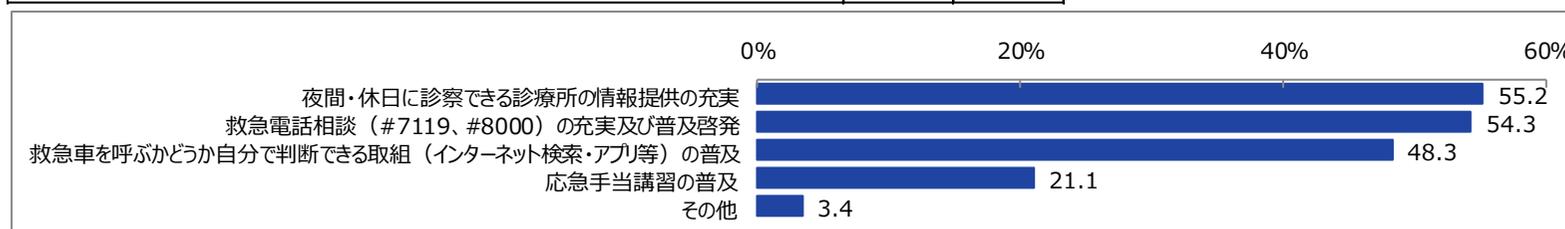


8 救急車の適正利用に向けた仕組み

◇ 「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が55.2%で最も高く、「救急電話相談（#7119、#8000）の充実及び普及啓発」が54.3%と続く。

Q8.あなたは、救急車の適正利用（不必要な要請を避ける等）に向けてどのような仕組みが必要であると考えますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実	55.2	552
救急電話相談（#7119、#8000）の充実及び普及啓発	54.3	543
救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及	48.3	483
応急手当講習の普及	21.1	211
その他	3.4	34



（参考）

救急車は限られた資源です。本当に救急車を必要としている方のためにも、救急車の適正な利用にご協力をお願いします。救急車の適正利用については、以下の URL からご覧ください。

茨城県 HP：https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shobo/shobo/info/kyukyusha_riyo.html

ここからは、心臓が止まった人に電気ショックを加えて心臓を動かす「AED（自動体外式除細動器）」という機器についてお尋ねします。

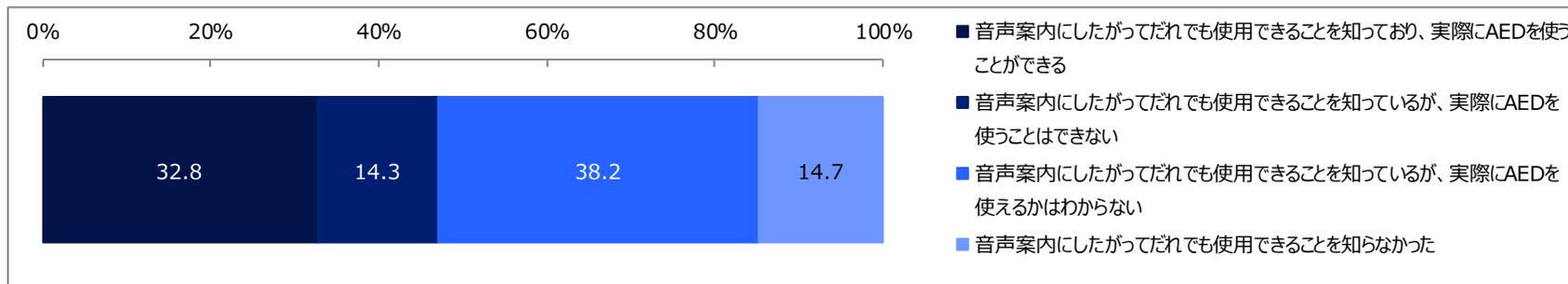


9 AED の使用

◇ 「音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際に AED を使うことができる」が 32.8%などとなっている。

Q9.あなたは、AEDが、音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っていますか。また、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、あなたはその人にAEDを使うことができると思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際にAEDを使うことができる	32.8	328
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使うことはできない	14.3	143
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使えるかはわからない	38.2	382
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知らなかった	14.7	147



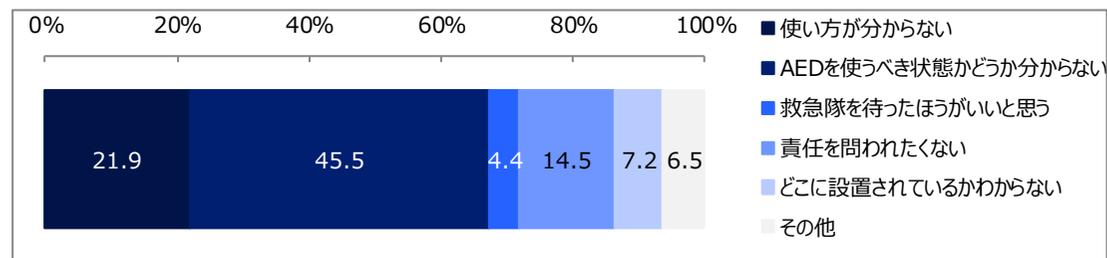
10 AED を使えない、または使えるかどうか分からない理由

◇ 「AED を使うべき状態かどうか分からない」が 45.5% で最も高く、「使い方が分からない」が 21.9% と続く。

(Q9 で「音声案内にしたがってだけでも使用できることを知っているが、実際に AED を使うことはできない」「音声案内にしたがってだけでも使用できることを知っているが、実際に AED を使えるかはわからない」を選択された方へ)

Q10. AED を使えない、または AED が使えるかどうか分からないと思う一番の理由は何ですか。次の中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	525
使い方が分からない	21.9	115
AED を使うべき状態かどうか分からない	45.5	239
救急隊を待ったほうが良いと思う	4.4	23
責任を問われたくない	14.5	76
どこに設置されているかわからない	7.2	38
その他	6.5	34



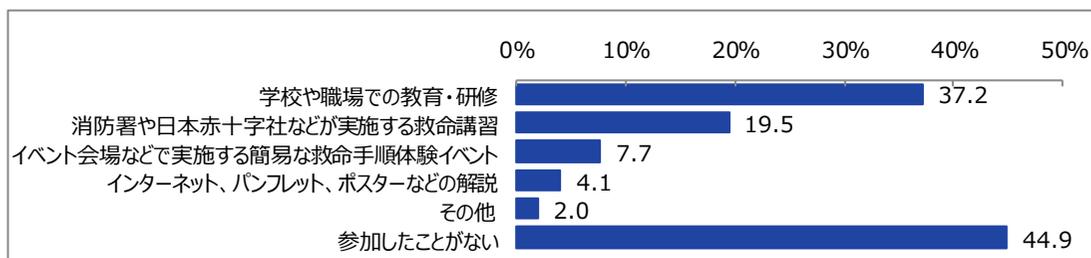
11 心肺蘇生の講習会等への参加経験

◇ 「学校や職場での教育・研修」が 37.2% で最も高く、「消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習」が 19.5% と続く。

◇ 一方で「参加したことがない」と回答した方は、44.9% であった。

Q11. あなたは、これまで AED の使い方を含む心肺蘇生の講習会などに参加したことがありますか。参加したり、見たりしたことがあるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
学校や職場での教育・研修	37.2	372
消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習	19.5	195
イベント会場などで実施する簡易な救命手順体験イベント	7.7	77
インターネット、パンフレット、ポスターなどの解説	4.1	41
その他	2.0	20
参加したことがない	44.9	449

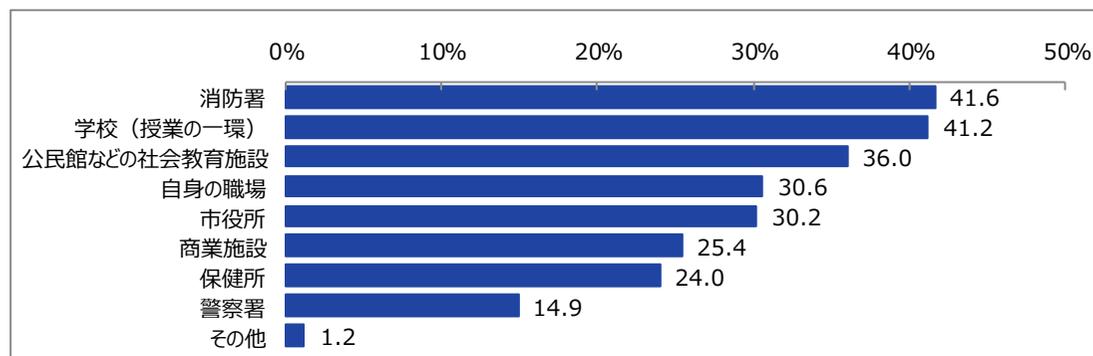


12 応急手当講習の受講

◇ 「消防署」が41.6%で最も高く、「学校（授業の一環）」が41.2%と続く。

Q12.あなたは、AEDの使い方を含む応急手当の講習をどこで受講できると良いと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
消防署	41.6	416
学校（授業の一環）	41.2	412
公民館などの社会教育施設	36.0	360
自身の職場	30.6	306
市役所	30.2	302
商業施設	25.4	254
保健所	24.0	240
警察署	14.9	149
その他	1.2	12



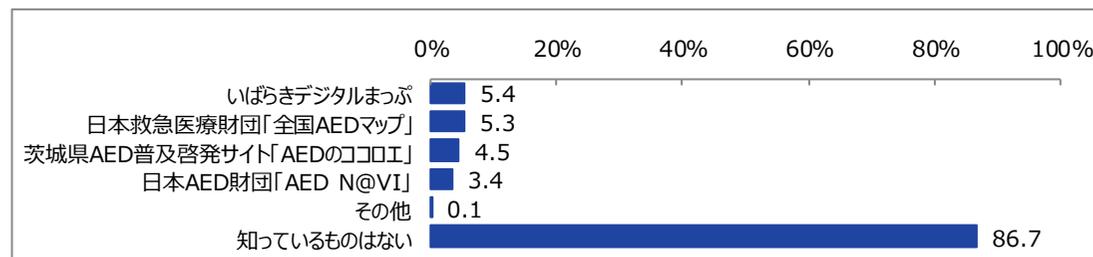
13 AED 設置施設を検索できるサイトの認知度

◇ 「いばらきデジタルマップ」が5.4%で最も高く、「日本救急医療財団「全国 AED マップ」」が5.3%と続く。

◇ 一方で「知っているものはない」と回答した方は、86.7%であった。

Q13.AEDの設置施設を検索できるインターネットのサイトがあります。次の中からあなたが知っているものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
いばらきデジタルマップ	5.4	54
日本救急医療財団「全国AEDマップ」	5.3	53
茨城県AED普及啓発サイト「AEDのココロエ」	4.5	45
日本AED財団「AED N@VI」	3.4	34
その他	0.1	1
知っているものはない	86.7	867



(参考)

各 AED 設置施設検索サイトについては、以下の URL からご覧ください。

- ・茨城県 AED 普及啓発サイト「AED のココロエ」：<https://www.aed.pref.ibaraki.jp/>
- ・いばらきデジタルマップ：<https://www2.wagmap.jp/ibaraki/Portal>
- ・日本救急医療財団「全国 AED マップ」：<https://www.qqzaidanmap.jp/>
- ・日本 AED 財団「AED N@VI」：<https://aed-navi.jp/>

■調査の目的

県民に救急車の適正利用を促すために県で実施している「茨城県おとな救急電話相談（＃7119）」、「茨城県子ども救急電話相談（＃8000）」等について、県民の認知度や活用状況等を調査し、今後の普及啓発活動や事業改善の参考とする。

また、県民がAEDの使い方を含む心肺蘇生の講習を受講しやすい体制づくりを推進するため、AEDについての理解、意識を調査する。

■実施概要

・実施期間：令和5年8月18日～8月28日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和5年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		114	245	94	359	188	1,000
性別	男性	59	125	50	185	99	518
	女性	55	120	44	174	89	482
年代別	18～29歳	18	41	16	68	33	176
	30歳代	17	42	16	62	30	167
	40歳代	23	55	21	83	41	223
	50歳代	28	57	21	79	42	227
	60歳代	28	50	20	67	42	207

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 男性18～29歳の回収件数は、「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代で2サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。